

審議会等の会議結果報告書

【担当課】 図書館

会議の名称	平成29年度第3回図書館協議会		
開催日時	平成29年11月30日(木) 午後4時00分～5時30分		
開催場所	茅野市図書館 2階会議室		
出席者	矢崎委員長、岩崎副委員長、大石委員、折井委員、田村委員、福田委員、両角委員、山田教育長、藤森生涯学習課長、五味図書館長、濱主事		
欠席者	松井委員、北原委員		
公開・非公開の別	公開・非公開	傍聴者の数	0人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容		
図書館長	1 開会		
教育長	2 教育長あいさつ みなさんによりよい意見を教えていただきたいと思う。先日ロングモントと台湾に行く機会があった。ロングモントの図書館は、英語の本だけでなく、スペイン語、ドイツ語など多国籍な本がたくさんあった。台湾の中学校の図書館では、16時の下校に合わせて16時～20時半まで学校図書館を開放していた。2カ所の図書館で共通するものは利用する人のニーズや多さよりも情報を必要とする方に開かれている図書館だと感じた。 茅野市の学校図書館と茅野市図書館はつながっているのだけど、もっと別の次元でのつながりを作れたら子どもたちの読書はすごいものになると思う。これからの図書館のあり方を考えていくヒントになったらと思う。		
大石委員	3 協議事項 (1) 平成29年度上半期図書館運営報告 利用状況について28年度より前の状況はどういったものか。		
図書館長	茅野市図書館の一番入館者が多かった年は21年度の77,171人。今年度は71,991人であった。28年度は69,769人。27年度は73,231人。26年度は77,018人であり増えたり、減ったりを繰り返している。全国的には図書館利用は減っていると聞く。諏訪の中では原村が増えているが、他の図書館では減っているか、横ばいかなという話を聞いた。		
矢崎委員長	原村の図書館が増えているのはなぜか。		
図書館長	今年からひとり10冊から20冊にしたことなども考えられる。ただ県の概況によると昨年よりも住民一人あたりの貸出冊数は減っていた。		
岩崎副委員長	希望図書が分室によって差がでてるのは、運営の仕方などが影響しているのか。		

図書館長	それもあるかと思う。もっと子どもたちに本の紹介をした方がいいのでは。という声も聞くため。声をかけるからリクエスト(希望図書)が増えるのではないだろうか。
矢崎委員長	希望図書は児童の関係か。
図書館長	そうです。分室によっては一般書のリクエストがあるところもあるが、ほとんどが児童書。
岩崎副委員長	リクエストが多い時は他のところに発展させる良いきっかけだと思うので、うまく増やしていければと思う。
図書館長	本がないと思いきらめて分室に来なくなれば、本館にも足が向かなくなってくると思う。身近な図書館の充実をしていかないと次につながっていかない。
福田委員	団体貸出とはどういうものか。
図書館長	一般的には貸出期間3週間、冊数10冊と制限があるが、ボランティアグループや学校図書館、保育園など期間や貸出冊数が100冊の2ヶ月など上限で貸出をしているもの。
岩崎副委員長	諏訪東京理科大学では、一般書の取り扱いはあるのか。
福田委員	専門的なものばかり。
岩崎副委員長	理科大生の中で、高校生や中学生とダブった本を読むということを知ったことがある。短期間で図書館の本を団体貸出したりできないか。
福田委員	スペースの問題と予算の問題がある。
図書館長	理科大さんの方と団体貸出が可能ならできればと思う。
矢崎委員長	大学というところとちょうどいろんなことに対して悩む時期であるため、それに対して応えられるような本など、図書館としてサポートできることがあればと思う。
折井委員	希望図書の要望はどう応えているのか。
図書館長	内規的な選書基準の中で要望の本が他館にある場合はとりあえず借りて、よければ茅野市でも買おうか。という時もある。購入希望などは月5冊ほどあるが、その中で1冊買おうか。というような感じである。特定の方の購入希望もあり、その方の書棚になってしまうため、お断りをする場合もある。

	<p>(2)第5次茅野市総合計画「第1次社会教育推進計画(図書館の充実)」について</p>
両角委員	<p>家読ノートは各小学校でも似たようなものがあるが、これはいっぱいになったら何かもらえるとかはあるのか。</p>
図書館長	<p>読み一むinちのとの相談になるが、図書館でもホームページにダウンロードできるような形にして、一冊だけで終わることのないようにすることは考えている。学校のものに合わせて何ポイントとかでもいいかと。</p>
岩崎副委員長	<p>ハンドルネームでいいようにして、図書館で「～さんの記録」など他の人が見れるようにすることもおもしろいと思う。</p>
矢崎委員長	<p>今茅野市の65歳以上は38%ぐらいになってきている。人口は減っているが、世帯数は増えている。茅野市は22,000所帯あり、そのうちひとり世帯は6,000世帯ぐらいある。よって高齢人口はどんどん増えていくように感じる。図書館の選書なども市の実状に合わせていかないと、ニーズにならないと思う。現状を捉えて対策をとっていかないと、後れる形になってしまう。</p>
図書館長	<p>今年の4月に年代別の貸出者数を調べたが、全体5,602人に対して61～70歳は1,505人。71歳以上は777人と全体の31.8%が60代以上であった。続いて多いのが41～50歳代で15.4%。次が31～40歳代で10.9%であった。</p>
岩崎副委員長	<p>60歳以上の女性は目が悪くなるし、根気もなくなってくる。そうすると読書をする人は本当に好きだとか、おもしろい本に出会ったときしか読まなくなる気がする。そうなると雑誌であれば、簡単に見ることができ、ビジュアル的に入ってくることができる。市民館のコーナーの一角に雑誌をもっと増やしてみてもどうか。モデルケースとしてどこかでやってみるのもいいと思う。</p>
図書館長	<p>市民館の資料室という位置づけがあるため、簡単にはいかないように思う。少しずつ話をしていければと思う。</p>
藤森生涯学習課長	<p>市民館の社長さんも交えながら相談していったほうがいいと思う。</p>
田村委員	<p>北山地区が一番高齢化が進んでいる。図書館まで来れるかななどの問題がある。そういったときに学校図書館のあり方、どうやって活かしていくかが大事になってくるように思う。</p>
矢崎委員長	<p>今全国の空き家は850万戸ある。これからはもっと増え3軒に1軒は空き家になってしまう。そうなってくると各地域の拠点はなくならないと思うため、学校図書館やコミュニティセンターをどう使っていくかは、とても大事なことである。高齢者のための窓口が必要。</p>
図書館長	<p>公民館との連携も必要になってくると思う。</p>

大石委員	(家読ノートについて)セカンドブック手渡し会の際に家読ノートを配ることはできないか。
図書館長	読り一むinちのと相談していきたい。
矢崎委員長	児童コーナーがあるなら、年寄コーナーがあってもいいように思う。いろいろやってみていいと思う。
図書館長	それに関して高齢者の方もターゲットにしており今年度行った諏訪東京理科大学出前授業も継続的にやっていけたらと考えている。またやってほしいなどの声も参加された方から聞いている。
岩崎副委員長	公民館で実施したりはできないのか。
図書館長	図書館でやるのがいい。と言う先生もいらっしゃるので、人数よりも図書館で行うことの意味というところが大事かと思う。
矢崎委員長	茅野市は人口が減ってきているので、貸出者数や貸出冊数が減ってしまうことは十分に考えられること。よってあまり統計の数字に一喜一憂しない方がいいと思う。
図書館長	全国的にいかに図書館に来ているかという入館者数を図書館では重視している。
矢崎委員長	何人中の何人といったようにまとめていった方がいいかもしれない。
	<p data-bbox="491 1305 624 1379">(3) その他 特になし。</p>